

令和8年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(水稲・麦・大豆) 主要農作物優良種子生産管理事業	○「徳島県主要農作物等種子条例」及び「徳島県主要農作物等種子生産等実施要綱」に基づき、主要農作物にかかる奨励品種等決定調査、原種及び原原種の生産等を行う。 ○水稲作況試験：気候変動が本県水稲の生育・収量に及ぼす影響について把握する。	H10～	栽培・育種
(水稲) 植物調節剤の適用性試験	水稲の除草剤、生育調整剤の農薬登録取得に向け、薬剤効果、薬害試験を実施する。	S39～	栽培・育種
(水稲) 除草剤に頼らない早期水稲用雑草防除技術の確立	水稲の有機栽培を実現するため、知見の少ない早期栽培で適用できる除草剤を使用しない雑草防除技術を確立する。	R6 ～ R8	栽培・育種
(水稲) 耕畜連携を加速する早期飼料用米栽培技術の確立	飼料高騰、国の制度改正により飼料用米専用品種への要望が高まっているため、早期栽培用の飼料米品種を選定し、栽培法を確立する。また、耕畜連携により作成した堆肥ペレット肥料を活用した栽培法を確立する。	R6 ～ R8	栽培・育種
(水稲) にじのきらめきの特徴を最大限に引き出す栽培技術の確立	夏期の高温による水稲の収量・品質の低下に対応するため、新たに奨励品種に採用された「にじのきらめき」について、専用一発肥料の開発や施肥量・植栽密度の最適化など品種特性を最大限に引き出す栽培技術を確立し、栽培マニュアルを作成する。	R8 ～ R10	栽培・育種
(水稲) 食料安全保障強化に向けた水稲の低コスト・多収栽培技術の開発（再生二期作）	主食であるコメの生産は、国際情勢、気候変動、農業生産基盤等複合的なリスクが高まっている。安定的な食料供給能力を確保するためには、栽培方法の省力・低コスト化が必要である。よって、省力、低コストで多収が期待される「再生二期作」を実現するために、地域の条件に適した品種選定、栽培管理技術を開発し、栽培マニュアルを作成する。	R8 ～ R10	栽培・育種
(雑穀・ごうしゅいも) 遺伝資源の保存	雑穀類、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。	H25～	栽培・育種
(サツマイモ) 砂地畑甘藷における活着が良く、品質が低下しないセル成型苗育苗技術の開発	サツマイモの移植作業は、手作業で重労働であり、規模拡大のためには、省力化が求められている。そこで、全自動移植機による省力作業を実現するため、「セル成型苗」を用いた機械移植を検討する。	R7 ～ R8	栽培・育種
(サツマイモ) サツマイモ「つる枯症状」の発生要因の解明と対策技術の確立	近年、産地で問題となっている「つる枯症状」の発生リスクを軽減するため、発生要因の解明と育苗及び本圃における総合的な対策技術を確立する。	R6 ～ R8	栽培・育種

令和8年度 農産園芸研究課 課題一覧

（品目） 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
（ブロッコリー） ブロッコリーのスマート花蕾測定と収穫日予測システム	ブロッコリーは経営規模の拡大により、作付け面積と圃場数が増加している。それにより、数多くある圃場の生育状況が把握できず、収穫時期に効率的な人員配置ができず、収穫ロスが多発することが問題となっている。そこで、生育途中の花蕾をスマートグラスで簡易的に測定し、平年気温から収穫予測モデルを作成し、どこの圃場でいつ収穫可能であるかを、予測できる技術を開発する。	R8 ～ R10	栽培・育種
（イチゴ・サツマイモ・レンコン） 新品種の開発	気候変動により、高温、干ばつ、それに伴う病害虫が増加し、野菜の収量・品質が低下している。そのため、気候変動に適応できる品種開発は急務である。そこで、早期に新品種を育成するために、育種目標の絞り込みや農研機構や産地との連携により、迅速な新品種開発に取り組む。	R8～R12	栽培・育種
（ミニトマト） ミニトマト送風受粉機開発による果実生産の安定・省力化	簡易な送風受粉機の試作と現地実証、自動走行送粉受粉ロボットの市販化を目指し企業との連携を模索する。	R7 ～ R9	栽培・育種
（イチゴ） スマートポリネーター監視システムで活動把握！適材適所なポリネーター投入によるイチゴ高収益生産の実現	ミツバチを主としたポリネーターの活動低下によるイチゴの受精不良果を削減するため、ポリネーター活動監視システムを開発し、品種や季節を考慮した対策マニュアルを作成する。これにより、イチゴの受精不良果発生を削減でき、高収益生産を実現する。	R5 ～ R9	スマート農業 栽培・育種
（イチゴ） イチゴの送風受粉システムの開発	イチゴの果実生産にはミツバチが不可欠だが、ミツバチの活動が低下すると奇形果が発生する。また、ミツバチの供給不足なども生じている。そのため、イチゴの安定生産には、ミツバチに頼らない他の受粉管理手法の開発が必要である。 以上のことより、ミツバチに代わる、自律走行型の送風受粉機を開発し、商品化する。	R8 ～ R9	スマート農業 栽培・育種
（シンビジウム） シンビジウム花飛び実態の解明と対策技術の確立	シンビジウム切花は、生育途中で花が枯死する「花飛び」症状が問題になっているため、農業支援センター等と連携しながら、花飛びの発生状況を把握し、原因を突き止め、花飛びの対策技術を開発する。	R8 ～ R10	スマート農業
（タラノメ・シロウリ） 遺伝資源の保存	雑穀類、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。また、県の育成品種を保存栽培する。	H25～	スマート農業
（スタチ） 徳島スタチの新たな品種・生産技術開発による周年供給体制の強化	①突然変異育種による早生品種の開発、②双幹形仕立てによる省力化、③加温ハウス栽培の省エネ管理、④IoTを活用した貯蔵技術 を研究し、周年供給体制の強化を図る。	R6 ～ R8	果樹
（中晩柑） 徳島県のオリジナル新品種カンキツの開発	ポストハッサクである中晩柑「上板29号」の現地適応性試験により、県西部カンキツ産地への導入を図る。	R7 ～ R9	果樹

令和8年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(フィンガーライム、アボカド) 魅力ある熱帯果樹の低コスト生産モデル確立に向けた栽培技術の開発	温暖化に適した、アボカド、フィンガーライムの導入が徐々に進んでいる。これら品目は、ハウスミカン転換品目として有望とされているが、詳細な栽培技術の情報がない。そこで、アボカド、フィンガーライムの栽培技術・品種特性を明らかにし、生産現場に役立てる。	R7 ～ R9	果樹
(ナシ) ナシ新品種によるブランド力の向上	本県では、「幸水」、「豊水」が栽培面積の90%以上を占めている。「豊水」収穫後に収穫可能な「あきづき」を導入したが、果肉障害が発生しやすく、豊水～あきづきの作型で、徳島県オリジナル品種が望まれている。そこで、①良食味、大玉で、「豊水」、「あきづき」の代替となる「徳島県オリジナル品種」の育成に取り組む。	R7 ～ R9	果樹
(ナシ) 輸入花粉を代替える国産ナシ花粉確保技術の確立	ナシの人工受粉に使用する花粉は中国からの輸入に頼っていたが、2023年に中国で火傷病が発生し、花粉が輸入禁止となった。そこで、幸水の剪定枝から花粉を採取する技術を開発する。花粉採取方法が確立後は、人工受粉の省力化を目指したドローン人工授粉技術の開発を行う。	R7 ～ R9	果樹
(果樹全般) 本県に適応する果樹品種の比較試験 (系統適応性比較)	(独)農研機構果樹研究所が育成した品種の系統適応性試験を実施する。	S39 ～	果樹
(経営) 経営モデル確立による経営発展・就農支援	新規就農者を支援するため、各地域・品目での「農業経営モデル」を作成し、もうかる農業経営の実現に役立てる。また、遊休農業用ハウス活用システムの構築、徳島県型低コストハウスの効果実証により、低コストで施設園芸を始められるようにする。	R7 ～ R9	果樹